

2018年7月19日
第96号

全労連

全労連
憲法・平和グループ

憲法 平和闘争ニュース

「世界大会にいきたくなる」学習会、大会パンフで学習重ね、行動も広げて世界大会へ



高校生が大活躍！署名の3分の1も集めました！

【神奈川】「大会にいきたくなる」学習会に30人超！期待いっぱい！

神奈川県では、青年学生のみなさんが「神奈川青年 PEACETOUR 実行委員会」をつかって、代表派遣のとりくみをすすめています。

7月15日におこなった「世界大会にもっと！いきたくなる学習会 2018 Ver.」では、今年の世界大会の意義や魅力について前川史郎日本原水協担当常任理事が講演。「アイルランドやオーストリアの代表が来るというお話に期待が高まった」など、たくさんの前向きな感想が多く寄せられました。

【千葉】ヒロシマで県内青年の連帯をつくろう！

今年の世界大会の千葉県代表団の特徴は、20代が多いことです。土建の半分、県内のある民医連の職場から参加する11人中10人（うち6人は研修医）が20代です。

千葉県内の青年による連帯をつくろうと、民青同盟県委員会を中心にバスで参加する青年学生ツアーのメンバーとともに、ここも8月5日の分科会後の青年交流会を結節点にしようと努力しています。

【福岡】大会パンフで学習、参加した高校生が署名に奮闘！

広島大会に青年学生を派遣しようとするとりくみをつよめ、現在10人の参加が決まっている民青同盟福岡県委員会は、8月5日分科会後に広島現地で交流会を開きます。

7月16日の学習会には高校生から社会人まで10人が参加。世界大会学習パンフレットを使った学習会（左上写真）。「すごく分かりやすかった」「朝鮮半島や核兵器の現状がよく分かった」と好評でした。

学習会直後に「ヒバクシャ国際署名」宣伝行動（右上写真）をおこない、参加した高校生が全体の3分の1の署名を集めるなど、学んだことがすぐ力になりました。

（原水爆禁止 2018年世界大会実行委員会ニュース 7月18日号より）

全国酸素部会**毎月9の日に安倍9条改憲NO！9条宣伝行動つづけて**

7月9日(月)に南海本線・石津川駅で9条ビラを配布しました。今までは、堺地協として毎月9日に行ってきた、参加職場は寿運送部会と大腸液送分会、医労連からは耳原病院労組です。大阪本部としても9条の会の立ち上げの話などありますが、すぐに立ち上げは困難なので、石津川駅でのチラシ配布などの宣伝行動に参加することにしました。今回が大阪府本部として初めての参加で、府本部2人、寿運送部会4人・大腸液送分会4人が参加、いつものように耳原労組が用意をしたチラシ400枚がいつもより人数が多いので、30分ほどで終わりました。

その間に集めた署名は16筆と時間が短いのにいつもと比べると多く集まりました。たちは、日本が再び戦争をする国になるのは嫌です。憲法9条の改悪に反対し、平和主義の原則が生かされるよう求めていきたいと思えます。今後も、毎月9の日には南海本線・石津川駅でビラ宣伝を行っているので、参加できる組合員は17時30分に集まってください。みんなで憲法9条を未来につなげていきましょう。(大腸液送分会/全国酸素部会新聞 No.1 7月17日号より)

神奈川県南支部**毎月定例・署名行動を全組合員参加の運動といちづけてニュースで知らせて**

気温35度を超える猛暑日の7月14日に定例・署名行動をJR川崎駅前で行いました。3連休の初日の影響か、猛暑のためか川崎駅前の人通りは、いつもよりだいぶ少なく、チラシなどの受け取りが心配されましたが、300個のティッシュ付ビラは、いつもの通りあつという間になりました。次回は、8月25日(土)です。

6月は23日におこない、中日臨海バス分会から初めて書記長が参加し、10人での行動になりました。組合執行部では、これが他の分会に刺激となって支部執行委員以外の参加者が増えていくことを期待しています。この日、9条改憲NO!、核兵器廃絶を求める国際署名とあわせて3筆でした。

(2018年夏季闘争ニュース30、33号より)

**原水禁世界大会成功へ一歩ずつ
国民平和大行進 ③ 千葉**

7月18日、国民平和大行進74日目。船橋市高根台公園駅高根台プラザで出発集会。実行委員長のふたわ診療所所長の高橋さんは、「今朝の気象庁が猛暑日のため、外出や運動は控えるようにとっていたが、私達は外出をし平和運動を控えずにはおられません。水分をしっかりととりながら平和大行進を頑張りましょう」と挨拶。意気が上がる。午後、津田沼駅で40分、JR船橋駅で50分の宣伝署名活動。対話しながら合わせて48筆でした。船橋市役所では歓迎と激励の市長メッセージを総務課長が代読しました。(国民平和大行進 Face Book より)

**核兵器禁止条約採択1年、原水禁世界大会へ最後まで
職場から、地域から参加を大きく広げましょう!**